



平成 30 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社川金ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 鈴木 信吉
(コード番号 5614 東証第二部)
問合せ先 取締役経営管理部長 青木 満
(TEL. 048-259-1111)

第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績との差異、通期連結業績予想の修正、剰余金の配当及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 5 月 11 日に開示いたしました第 2 四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異が生じたのでお知らせいたします。また、当社子会社の不適合品の出荷に伴う影響を鑑み、通期連結業績予想につきましても修正いたしましたので、お知らせいたします。

平成 30 年 11 月 9 日開催の取締役会において、第 2 四半期の剰余金の配当（無配）、期末の配当予想の修正について決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想値と決算における実績値との差異について

① 平成 31 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績の差異（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 9 月 30 日）

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1 株当たり四 半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	16,000	850	850	530	26.75
今回発表実績 (B)	18,998	1,035	984	524	26.51
増減額 (B-A)	2,998	185	134	△6	—
増減率 (%)	18.7	21.8	15.8	△1.1	—
(ご参考)前第 2 四半期連結実績 (平成 30 年 3 月期第 2 四半期)	16,782	808	938	△920	△46.47

② 差異が生じた理由

素形材事業におきましては、精密鋳造品とアルミダイカスト品は自動車関連事業等からの受注が好調に推移いたしました。大型鋳鋼品は 需要回復が遅れておりますが、特殊鋳鉄鋼品が堅調を維持しております。異形鋼につきましても、直動システム向けの売上が伸びました。

土木建築機材事業におきましては、土木関連事業で受注残を消化し順調に売上を計上いたしました。建築関連事業で売上が伸びました。

産業機械事業におきましては、油圧機器は、建設機械向けシリンダーを中心に計画通りに推移しました。ゴム用射出成型機は主力製品の販売が順調に推移しております。

これらの結果、売上高が増加するとともに、営業利益、経常利益ともに予想を上回りましたが、固定資産の処分損を計上したことにより親会社株主に帰属する四半期純利益は予想を下回りました。

なお、当社子会社の不適合品の出荷に伴う対策費用等については現時点では見積ることが困難なため、当第2四半期連結累計期間では計上いたしておりません。

2. 業績予想の修正

① 平成31年3月期通期連結業績予想の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

（百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	35,000	2,200	2,200	1,400	70.66
今回発表実績 (B)	35,000	2,200	2,200	—	—
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成30年3月期)	39,124	3,061	3,075	926	46.77

② 修正の理由

通期の連結業績につきましては、売上高、営業利益及び経常利益は修正いたしません。当社子会社の不適合品の出荷に伴う対策費用等については特別損失にて計上するため、親会社株主に帰属する当期純利益は一旦未定とさせていただきます。

3. 剰余金の配当

	決定額	直近の配当予想 (平成30年5月11日)	前期実績額 (平成30年3月期第2四半期)
基準日	平成30年9月30日	同左	平成29年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	5円00銭	3円75銭
配当金総額	—	—	74百万円
効力発生日	—	—	平成29年12月11日
配当原資	—	—	利益剰余金

4. 配当予想の修正

基準日	年間配当金（円銭）		
	第2四半期	期末	合計
前回予想	5円00銭	3円75銭	8円75銭
今回修正予想	—	未定	未定
当期実績	0円00銭	—	—
前期実績 (平成30年3月期)	3円75銭	3円75銭	7円50銭

5. 剰余金の配当及び配当予想の修正の理由

当社の利益配分につきましては、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております。また、長期的な事業継続を勘案し、新規事業の展開、研究開発、設備投資などに備えて、財務体質の強化を目的とした内部留保の充実に努めてまいりました。従来から、当社の配当につきましては、期末配当に加えまして、業績に応じて中間配当を行い、年間2回の配当を継続し、経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様に対しましては、配当性向を考慮し安定的な配当の維持及び業績に応じた適正な利益還元を基本としてまいりました。

本日発表しましたとおり当社子会社の不適合品出荷による業績に与える影響額が不明なため、第2四半期（基準日平成30年9月30日）の剰余金の配当につきましては見送らせていただくことといたしました。また、期末配当予想につきましては、業績が予想できないことから未定とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、配当予想の修正が生じた場合、速やかに開示いたします。

以上